

再評価結果（令和3年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課、高速道路課

担当課長名：前佛 和秀、長谷川 朋弘

事業名	常磐自動車道（いわき中央～亶理） 一般国道6号 仙台東部道路（亶理～仙台港北）	事業区分	高速自動車国道 一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局 東日本高速道路(株)
起終点	自：福島県いわき市好間町北好間（いわき中央IC） 至：宮城県仙台市宮城野区中野（仙台港北IC）	延長	150km		
事業概要	常磐自動車道は、関東地方と東北地方南部の太平洋沿いの主要地方都市を結び、産業、経済、文化の交流発展に重要な役割を果たす道路である。 仙台東部道路は、仙台都市圏高速環状ネットワークの一部を形成するとともに、東北地方の物流拠点である仙台塩釜港、仙台空港へのアクセスの向上、物流ネットワークの機能強化等に重要な役割を果たす道路である。				
S61年度事業化	S60年度都市計画決定 (H8年度変更)	S63年度用地着手	S63年度工事着手		
全体事業費	約 6,568億円	事業進捗率 (令和2年3月末時点)	96%	供用済延長	150km
計画交通量	9,300～39,400台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 2.3 (残事業) 4.3	総費用 (残事業)/(事業全体) 237 / 12,247億円 事業費：225 / 10,465億円 維持管理費：12 / 1,782億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 1,011 / 28,439億円 走行時間短縮便益：965 / 25,901億円 走行経費減少便益：34 / 2,207億円 交通事故減少便益：12 / 330億円	基準年 令和2年	
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施				
交通量変動	B/C = 3.8 (交通量 -10%)		B/C = 4.7 (交通量 +10%)		
事業費変動	B/C = 4.7 (事業費 -10%)		B/C = 3.9 (事業費 +10%)		
事業期間変動	B/C = - (事業期間-1年)		B/C = 4.1 (事業期間+1年)		
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・物流効率化の支援（国際拠点港湾（旧特定重要港湾）もしくは国際コンテナ航路の発着港湾へのアクセス向上が見込まれる） ・災害への備え（緊急輸送道路が通行止めになった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する） ・安全で安心できる暮らしの確保（三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる） <p style="text-align: right;">他 18項目に該当</p>				
関係する地方公共団体等の意見	<p>【宮城県知事】 常磐自動車道・仙台東部道路は、産業・経済・文化の発展や物流の効率化、医療の高度化、地域連携軸の形成に不可欠であり、国道6号・東北自動車道の交通分散機能や、事故・災害時におけるリダンダンシー機能を有する重要な道路です。 暫定2車線区間の4車線化を行う本事業は、当該路線に求められる信頼性、安全性、快適性の確保や交通の円滑化などを図り、沿岸地域はもとより県全体の復興を成し遂げるためにも必要な事業であります。 本事業の一日も早い完成に向け、強力に事業を推進するとともに、残る新地～山元間についても早期に4車線化を図られるよう要望します。</p> <p>【福島県知事】 常磐自動車道のいわき中央インターチェンジから岩沼インターチェンジ間は暫定2車線であり、交通渋滞の多発や交通事故の発生など、様々な問題が発生しており、本来、高速道路が備えるべき定時性や安全性などの確保が大きな課題となっております。 常磐自動車道は、東北自動車道と共に、首都圏と東北地方南部の主要都市を繋ぐ、ダブルネットワークを形成する大動脈であるとともに、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故からの復興・再生の加速、さらには、企業立地増加・雇用拡大や交流人口拡大などによる地域経済の振興に大きな役割を果たしており、いわき中央から広野間について目標通り令和3年度に完成を図るとともに、残る広野から山元間についても一日も早く全線4車線化を図るよう強く要望します。</p>				

事業評価監視委員会の意見	
対応方針（原案）のとおり了承。	
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	
令和元年の平均交通量は17,000台/日である。	
事業の進捗状況、残事業の内容等	
平成6年3月に仙台空港IC～仙台東IC間、平成7年7月に岩沼IC～仙台空港IC間、平成11年3月にいわき中央IC～いわき四倉IC間、平成13年8月に亘理IC～岩沼IC間及び仙台東IC～仙台港北IC間、平成14年3月にいわき四倉IC～広野IC間、平成16年4月に広野IC～常磐富岡IC間、平成21年9月に山元IC～亘理IC間、平成24年4月に南相馬IC～相馬IC間、平成26年12月に浪江IC～南相馬IC間及び相馬IC～山元IC間、平成27年3月に常磐富岡IC～浪江IC間が暫定供用。	
残事業の内容は、いわき中央IC～広野IC間及び山元IC～岩沼IC間の4車線化工事。	
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	
暫定2車線供用であるが、既に4車線分の用地取得が完了している。	
施設の構造や工法の変更等	
新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト縮減を図っていく。	
対応方針	事業継続
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は満たしており、事業実施の目的が立っている。
事業概要図	<div data-bbox="1145 790 1474 887" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>供用中区間(4車線) ■</p> <p>供用中区間(2車線) ■</p> </div>

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。